

自宅で取り組める

水害対策

大田区防災ポータル

「水害時からの避難のポイント」も一緒に確認しよう！



こちらから↑

近年は、集中豪雨による水害が甚大化しており、建物が浸水してしまい避難所生活を強いられる場合があります。また最悪の場合は人命が失われるなど被害は多岐にわたっています。日本はもともと災害が多い国として考えられているため、より一人ひとりの意識的な水害への対策が必要です。

そこで今回は、自宅で取り組める水害対策を「4つ」解説します。いざというときのために、水害対策のノウハウを知っておきましょう。

①土のうを設置する

玄関等に隙間なく詰めると浸水を軽減できる。段ボール箱に入れると強度が増す。



土のうよりも比較的簡単に用意できる水のうもあります。ごみ袋(45L)を二重にして半分程度の水を入れて口を閉じます。段ボールを用意し、その中にごみ袋を入れておけば浸水防護柵になります。

前号には水のうについての記事もあります。参考にご覧ください。

②家財を高い所へ上げる

貴重品や高価な家電は高い場所に移動させる。



家財被害を軽減するため、重要書類、高価な家電製品、数日分の衣類などは2階や高い所へ上げる。また家の様々な場所に厚板で丈夫な棚を作っておくと、いざという時に大事なものの浸水避けられます。また、畳があれば高い場所へ移動させましょう。

③防災セットを確保する

水・食料・衣類・充電器・救急セットなどを高い場所に保管しておく。



逃げ遅れてしまった時を想定して、防災セットの準備をしましょう。まず大切なのは食料です。水や日持ちする食料は2階や屋根裏など高い所に保管しておきましょう。万が一に備え、屋根の上に登れるように縄はしごも用意しておく安心です。

④自家用車を移動させる

早めに安全な場所へ移動する。移動が困難な場合はエンジンの浸水を避ける。



車種によって耐えられる水位は異なりますが、いずれの場合もエンジンや電気系統が故障すると走行不可になるため、マフラーに達しているかどうか一つの目安となります。ドア下部までの浸水であれば、車内への浸水はほとんどありません。エンジンや電気系統への影響も少ないです。

水害避難時の留意点

いざというときのために確認しておきましょう！

おおた防災セミナー開催

この講習会は専門家を招いて、災害対策について学びます。

次回開催予定(風水害編)は8月24日(日)です。9月以降も震災編が開催予定です。お早めにお申し込みください。

※定員に達し次第終了します。



こちらから↑



- ① 冠水した道を歩くときは、長い棒などを使って足元を確認しよう
- ②③ 近所で声を掛け合おう
動きやすい服装にしよう
- ④⑤ 持ち物はリュックにまとめよう
両手は自由になるようにしよう
- ⑥⑦ 水が膝上まできている時は避難しない
原則、車は使わない
- ⑧ 長靴はNG!
脱げにくい靴で!
- ⑨ 傘は視野が狭くなるので、ささないようにしましょう

略してYBT

Yaguchi Bousai Talk

～YBT第9号～ ホームページにてバックナンバー公開中!
前回発行のYBT第8号(令和7年1月19日発行)では、トイレ問題について紹介しました。過去のYBTは矢口特別出張所でお配りしております。



～風水害時の土のうについて～

土のうとは!?

→土砂を詰めた布袋のことで。台風や豪雨、洪水被害での浸水対策で家屋の入り口などに置くことで水や土砂の流入を防ぐために用いられます。
→土のうは一般的に繰り返し使うことができます。(種類や状況によっては異なります。)吸水性の土のうは、水で膨らんだ後、乾燥させることで再利用することができます。水に濡れた土のうは天日で乾かすと、土が固まった状態になるので足で踏みつけるなどして、中の土をやわらかくほぐすことで何度でも使用することができます。
→土のうの保管場所は、風通しを良くして、雨に濡れない場所かシートなどで養生をしてください。もし袋が破れてしまった場合は、新しい袋に詰め替えてください。



土のうの積み方

- 1 土のうの結び口は、上向きにして水の無い側へ向けます。(道路から水が入る場合は建物側へ)(結び口を上にする事で、流水の抵抗が少なく、土のう内に水を入れないようにすることができます)
 - 2 1段ごとに足で踏みつけて平らにします。
 - 3 すきまなく平坦に並べます。
 - 4 積み重ねるとき(2段目以降)は、土のうの結び口の方向を変えて、下の段の土のうと約3分の1ずらして重ねます。
- ～あらかじめビニールシートを敷いて、積み上げたものを巻くと効果的～



実際に土のう置き場に行ってみて、開けてみました



→土のう置き場は区内に27か所あり、風水害時に誰でもご利用できます。土のうは青色のカバー(オレンジ色のカバーで補強されているところもある)に被せられて置いてあります。青色のカバーは各箇所ひもで結ばれているので解くのに時間がかかりました。ひもを解かなくても上から青色のカバーを持ち上げるとカバーを外すことができるため、緊急の時はひもは解かず、持ち上げてカバーをどかしたほうが簡単です。

→青色のカバーを外すとたくさん積み重ねられている土のうが鉄の入れ物に入っており、それを開けて取り出します。上面が、開くようになっています。図のように開いた状態をイメージしておくといざというときにスムーズに開けられます。

→土のうを鉄の入れ物から取り出してみました!
重さは5kgのお米を想像すると良いかもしれません。鉄の入れ物の中には約100袋収納されています。土のうを使用した後は、鉄の入れ物や鉄の入れ物の周りに戻すのではなく、各自で処分してください。

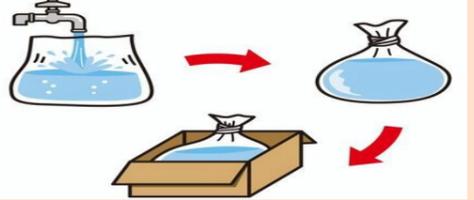
矢口地区及び周辺にある土のうの場所をお伝えします！

土のうってどうやって用意するの？

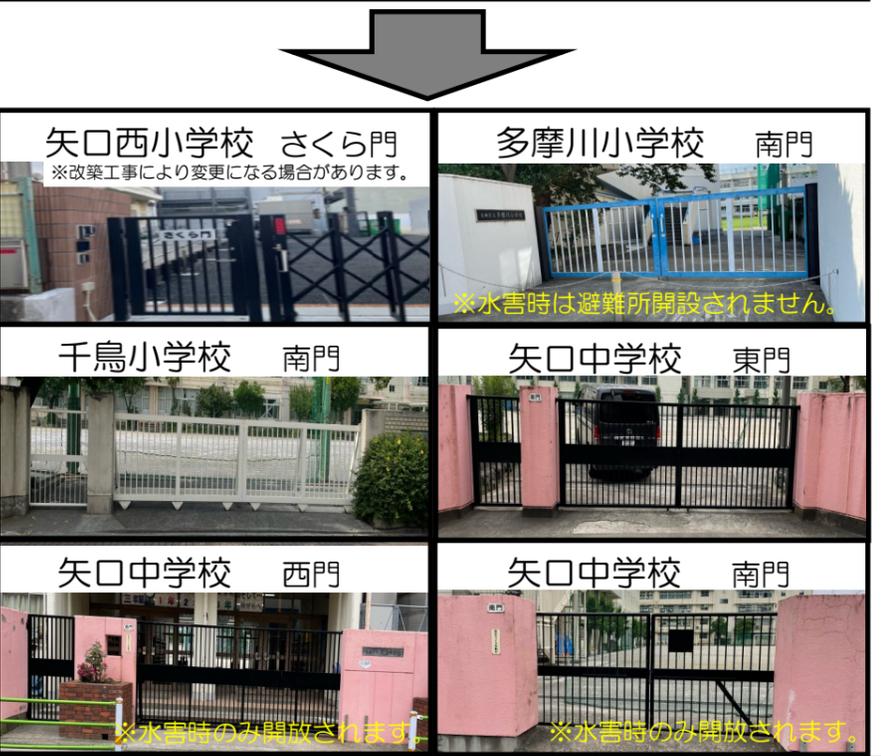
→土のう置き場は大田区内に27か所あり、矢口地区周辺には4か所設置されています。どなたでも緊急時や必要な時に使うことができます。
→詳しい場所は大田区のホームページや防災ハザードマップでも確認できます。

土のうと水のうの違い

→水のうとは、土砂の代わりに水を充てて、土のうと同じく浸水対策に役立つものです。水を注入したり、水に浸して膨らませたりするものがあります。土のうと比べて軽量で素早く簡単に準備できるのがメリットです。しかし、土のうよりも浸水を完全に防ぐことは難しく、水漏れに注意が必要です。



学校避難所及び水害時緊急避難場所の入り口



①	鶉の木二丁目児童公園	(鶉の木二丁目32番20)号
②	区道～鶉の木特別出張所前～	(南久が原二丁目30番5号)
③	つきやま公園	(千鳥二丁目3番15号)
④	矢口二丁目公園	(矢口二丁目21番30号)

土のうが設置されている場所は点在しているため、日頃からどの場所に土のうがあるか把握しておくことが重要になります。土のうは重さがあるので、風水害が起きてから取りに行くのでは遅いと言われています。常日頃から風水害に関心を持ち、土のうを備えておくことが大切です。

止水板の設置訓練の実施

令和7年5月27日(火)、大田区民プラザの駐車場にて止水板の設置訓練が実施されました。この訓練は館長、プラザ施設担当が中心となり、台風やゲリラ豪雨から来館者や施設を守るために行われました。

止水板は組み立て式となっており、スムーズに設置するため、改めて設置手順や必要備品の確認をしました。この先起こりうる万が一の災害から、地域のみなさまを守ることができるよう、これからも必要な対策を講じていきます。

止水板設置の流れ

- ①必要な資器材(板や支柱)を搬出
- ②支柱2本と止水板3枚を設置
- ③30分程度で設置完了

被災時に避難所へ避難する場合は、各避難所入り口が制限されてますので、入り口を確認しておきましょう！
右の図で★マークがついている場所が入り口です。
また、△マークは水害時のみ開放されます。

水害時、多摩川小学校は家屋倒壊等氾濫想定区域です。危険なので絶対に避難しないでください。